

# むきぼんだ花だよ 5月

2016. 5. 7



◎ヒレハリンソウ(腫破瑠草) ムラサキ科  
 英名のコンフリーで知られています。ヨーロッパ・アジアが原産。高さ1mまで育ち、全体に白い粗毛に覆われ、初夏に淡紅色の釣鐘状の花をつける。ヨーロッパでは、古くから根や葉を抗炎症薬や骨折を治すのに用いられていました。日本へは明治時代に導入され、家畜の飼料や食用として利用され、昭和40年代に健康食品として大ブームとなり、植えられたものが一部野生化したと思えます。日本では、葉を天ぷらなどにして食べるのが多く、また、胃潰瘍や大腸炎などの病気に、コンフリーの錠剤やハーブティーを飲むことがあったが、大量に服用すると肝臓を傷めるという事で現在は行われていません。厚生労働省は、2004年6月14日、コンフリーを含む食品を摂取して肝障害を起こす例が海外で報告されているとして、摂取を控えるように呼びかけると共に、2004年6月18日食品としての販売を禁じました。  
 ★撮影場所: イベント広場通路西草地。



## ◎ヤマウルシ(山漆) ウルシ科

落葉小高木で本の高さは3~5m位、雌雄別株で丘陵から山地に生える。樹液にふれるとかぶれるので注意。花は黄緑色の小さな花を円錐状に多数つけ、花序は長さ15~30mもあり豪華。秋の紅葉は鮮やかな朱色で美しい。漆器の塗料にする漆を採取するのは、本種でなく同科同属の中国原産のウルシです。  
 ★撮影場所 洞ノ原東側丘陵 北側草地奥



## ◎ブタナの草原(別名タンポポドキ) キク科

ヨーロッパ原産で熱帯の高地を含めほぼ世界中に帰化している多年生草本。春から夏にかけて80cmほどの花茎を伸ばし、よく分岐して先端に黄色いタンポポド型の頭状花を付ける。1930年代に札幌(タンポポドキと命名)と神戸(ブタナと命名)で帰化が確認されて以来、全国に広がった。  
 ★撮影場所 洞ノ原東側丘陵 北側



## ◎ペニバナツメクサ

ヨーロッパからアジアにかけての原産で、世界の温帯で牧草または花卉として栽培され各地で野生化している一年生草本。茎は下部でよく分岐し、春から夏にかけて茎の先端に直径2cmほどの花穂を出し濃赤色の花を密に着ける。明治の初期にクリムゾンクローバの名で牧草として導入されたがあまり普及しなかった。近年花卉としても栽培されるようになり、非常に美しかった。  
 ★撮影場所 歩く会の帰途(山陰道側道付近の水田)



## ◎タニツギ(谷空木) スイカズラ科

落葉小高木・山地の日当たりのよいところにごくふつう見られる。観賞用に庭園、公園などに植栽される。  
 ★撮影場所 洞ノ原東側丘陵通路左側



## ◎カマツカ(鎌柄ノ別名ウシゴロシ)バラ科

落葉小高木。冬落葉後も葉柄の基部が残り、冬芽の基部を保護している。これはカマツカ属やナナカマド属・リンゴ属の特徴。用途は、鎌や洋傘の柄、牛の鼻輪などの器具材また、観賞用として庭木・盆栽として植栽される。名前の由来は、材が丈夫で折れにくく、鎌の柄などに用いられたため。  
 ★撮影場所 洞ノ原東側丘陵 北側草地奥





2014年7月12日 開花撮影

ムサシアブミ



オオバコシボソウ

**カクレミノ ウコギ科**

常緑広葉樹も毎年新しい葉が出て古い葉は落葉します。クスノキのように新しい葉が出るのと同時に落葉するタイプと新葉の展開してから夏までにガラガラと落葉するタイプがあり、カクレミノは後者に入ります。カクレミノの古い葉は赤や黄色に色付いて落葉しますが、見過ごされることが多いのではないのでしょうか。どんな条件で黄色くなったり、赤くなったりするのか分かりませんが、観察会の日のカクレミノはきれいに色付いた葉が、散り行く前の時間を静かに風に身を任せていました。



タラヨウの説明に聞き入る会員

タラヨウの葉を楊枝などで文字を描くとその部分だけが褐色化するので文字を読むことができます。これは傷つけられた細胞内の加水分解性タンニンが酸化して褐色に変化するからです。無傷の細胞の乾燥を調整すると葉全体の褐色化が避けられるので長い期間文字を読むことができます。



**GWは、むきばんだ日和 2日目。草木染め**



**★むきばんだを歩く会★**

- 指導：鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」